

NPO 循環生活研究所サービ斯拉ーニングを受講しませんか？

環境科学科 1 年 劉 俊驛(りゅう しゅんえき)



2012 年 1 月 23 日(月)に、私たちは「学生が『地域』で学ぶことの意義」というテーマで、報告会を行いました。福津市インターンシップ、一風堂 CSR インターンシップ、NPO 法人循環生活研究所サービ斯拉ーニング、三つのグループは一年の活動を通して、各グループの地域に関する意義や学びなどをまとめて、報告しました。私は循生研サービ斯拉ーニング受講生として、プレゼンテーションとパネルディスカッションに挑戦しました。



一年間の活動内容、活動の中で一番困難だったこと、そして私とその困難をどうやって乗り越えたかについてプレゼンテーションをした後に、学生が「地域」で学ぶ意義についてパネルディスカッションを行いました。私にとっての一番の困難は、循生研に毎週通うことでした。なぜ、毎週行く必要があるのか、バイトではなくこの授業に時間を割く意味は何かについて考えました。私が日本に留学したのは、「学ぶ」ためだと改めて考えてました。大学の中にいるだけではまるで「温室の中の花」のようだと思い、私は自分の人生をそのまま終えたくないと思いました。また、友達のように何も考えずにバイトばかりの生活もしたくないと思いました。だから、一つでも多くの知識を得るために毎週循生研に通いたいと思うようになりました。そして、「分からない」で終わらせるのではなく、自分が分かるまで見たり訊いたりすることが大切なのだと感じました。一年間の自分を振り返り、自分が学んだことを、学外の方々や大学の教職員の方々、福岡女子大生、そして循生研スタッフの皆さんに報告したこと、そして自分自身の一年間の努力と成長を、誇りに思います。

私は、知識を受け入れることしかできない自分を変えたく、人に馬鹿にされない人間になりたい、そして新鮮で安全な野菜を作れるダンボールコンポストの魅力を知りたく、NPO 法人循環生活研究所(通称じゅんなまけん)サービ斯拉ーニングを受講し始めました。



この活動では、新鮮な空気を吸いながら、農家さんと畑に野菜の苗を植えたり、スタッフとして様々なイベント、講座、料理教室に参加したり、「小さな循環ファーム」を知るために野菜の出荷作業をしたり、循環生活を実現するために、生ごみで堆肥を作る「ダンボールコンポスト」を実践しています。



これを読んだあなたは、大変だと思うかもしれませんが、あなたに一番分かってほしいのは、活動の大変さではなく、私がこの活動を通して何を得たかです。それは一歩踏み出す勇気です。大勢の人の前で自分の思いを述べたり、どんな状況でも自分で考え判断し行動したりできるようになりました。大学外に出ることを「怖い」と思うのではなく、「自分が生きていくためにはどのような工夫ができるのか」と考えられるようになりました。社会に入ってもこの勇気があれば、どこへ行っても怖くないと思います。